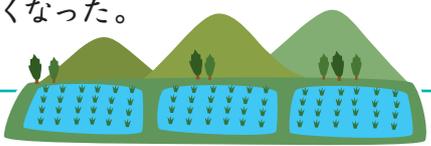
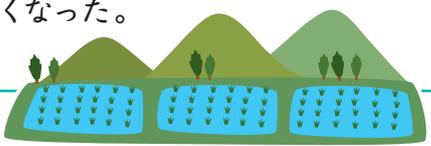


日本では、明治5年まで月と太陽の動きを元にした太陰太陽暦というこよみ(旧暦)が使われていて、月の呼び名も季節や行事にあった和風の呼び方がありました。

きゅうれき つき なまえ  
旧暦の月の名前

旧暦の月の名前は、たいへん古くから伝わるものなので、由来や意味には様々な説があり、どれが正しいのかは不明です。ここでは、おも せつ しょうかい 主な説を紹介しています。

つき 月	きゅうれき つき なまえ 旧暦の月の名前	ゆらい いみ おも せつ 由来・意味とされる主な説
がつ 1月	むつき 睦月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年を迎えて親類などが集まり、仲睦まじくする月という意味。</li> <li>・1年の初めの月という意味の「元月」が変化した。</li> </ul>
がつ 2月	 きさらぎ 如月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒さがまだ残っていて、衣(服)を更に着る「衣更着」。</li> <li>・暖かくなり、陽気が更に来る「気更に来る」という意味。</li> <li>・草木の芽が張り出す月「草木張月」が変化した。</li> </ul>
がつ 3月	やよい 弥生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草木がいよいよ生い茂る月「木草弥や生ひ月」が短くなって、「やよひ」となった。</li> </ul>
がつ 4月	うづき 卯月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卯の花(ウツギ)が咲く月「卯の花月」が短くなった。</li> <li>・イネの種を植える月「植月」。</li> </ul> 
がつ 5月	さつき 皐月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田植えをする月「早苗月」が短くなった。</li> </ul> 
がつ 6月	みなづき 水無月 (みなつき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田に水を入れる月「水の月」。</li> </ul> (「無」は無いことではなく、「～の」を意味している。) 
がつ 7月	ふみづき 文月 (ふづき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短冊に詩歌を書く七夕の行事にちなんだ「文披月」が変化した。</li> <li>・稲の穂が実る月「穂合月」が短くなった。</li> </ul> 
がつ 8月	はづき 葉月 (はつき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木々の葉が落ちる月「葉落ち月」が短くなった。</li> <li>・稲の穂が張る「穂張り月」。</li> <li>・雁が初めて来る「初来月」。</li> </ul> 
がつ 9月	ながつき 長月 (ながつき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜が長くなる月「夜長月」が短くなった。</li> <li>・稲刈りをする月「稲刈月」が変化した。</li> </ul> 
がつ 10月	かなづき 神無月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神を祭る月「神の月」。</li> <li>・雷のない月「雷無月」。</li> <li>・出雲大社に全国の神が集まり、各地の神々が留守になる月。</li> </ul>
がつ 11月	しもつき 霜月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・霜の降る月。</li> </ul> 
がつ 12月	しわす 師走	<ul style="list-style-type: none"> <li>・師(僧)が仏事で忙しく走り回る「師走」。</li> <li>・年が終わる「年果つ」。</li> <li>・四季が終わる「四極」。</li> </ul>

※和風月名は現在でも使用されることがありますが、旧暦は現在の暦より1～2ヶ月遅いため、現在の季節感とは少しずれがあります。

